3-7. 平田・柳水地区

１．地区の概要

（１）位置・人口等

■位置

柳水地区は益城町の北東部に位置し、地区の西は平田地区、北は北向地区、南は川内田地区に接しています。

集落は、地区内には町道川内田平田線を軸に形成されており、地区北西部にはマミコゥロードが通っています。

地形は、集落全体としてみると平坦な箇所はあまりなく、起伏に富んでいます。

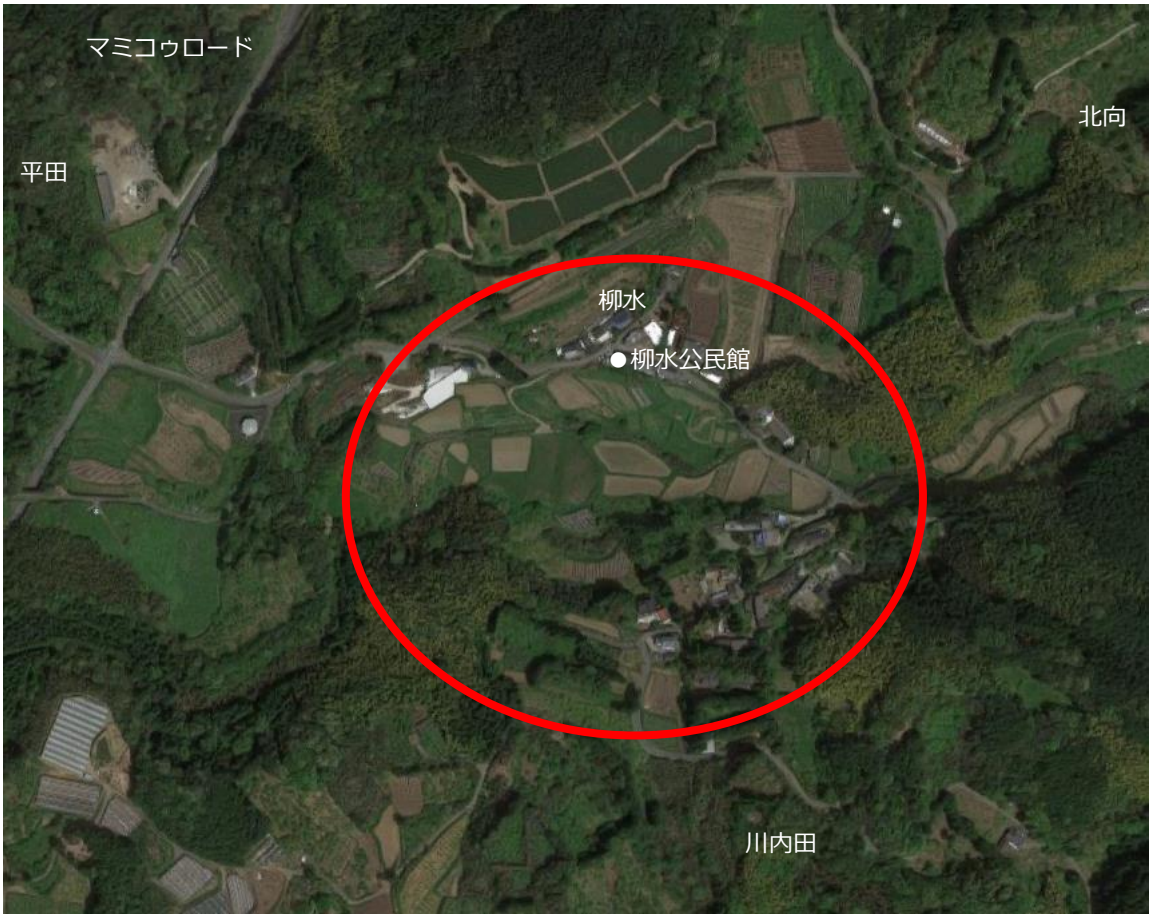


図　柳水地区

■人口等

平成 29 年３月末日の住民基本台帳によると、柳水地区の人口は 50 人、世帯数は 21 世帯となっています。

平成 25 年から 29 年までの５年間の人口・世帯数の推移をみると、震災前から世帯数はほぼ変化していないものの、人口は緩やかに減少し、平成 25 年から平成 28 年にかけて約１割減少しています。ただし、震災後の１年間では前年比で５％減少しています。

表　柳水地区の人口推移（平成 25 年～29 年）

	平成 25 年		平成 26 年		平成 27 年		平成 28 年		平成 29 年	
	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数
柳水	61	23	56	23	55	23	53	22	50	21
（H25 を 100 とする指数）	100	100	92	100	90	100	87	96	82	91

資料：各年 3 月住民基本台帳人口

（２）被害状況

熊本地震発生後１回目の住家の被害認定状況をみると、「全壊又は大規模半壊」は 13 件と柳水地区の約 70%を占めていることから、当地区は地震による住家被害が甚大であったことがわかります。

平成 29 年６月時点においては、大規模な被害となった家屋で、解体されたものの更地（空地）の状態になっているところもあります。

表　福田校区内大字別被災状況（住家）

	住家					計
	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	無被害	
大字平田	96	17	42	106	7	268
大字福原	91	34	104	271	7	507
柳水地区	9	4	2	3	0	18

	住家					計
	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	無被害	
大字平田	36%	6%	16%	40%	2%	100%
大字福原	18%	7%	21%	53%	1%	100%
柳水地区	50%	22%	11%	17%	0%	100%

（３）地区の課題

・震災前から震災後にかけて、人口は緩やかに減少傾向
・公共交通はなく、自家用車の利用が不可欠
・地区の主要道路はおおよそ４ｍが確保されている一方、狭あいな道路も多い。

２．地区の基本方針

柳水地区は、めがね橋やホタルが舞う地域資源に恵まれるほか、つながりの強いコミュニティが形成され、まとまりの良い「郷」です。

震災時は、平成 28 年 4 月 14 日の最初の地震の後、住民は地区の拠点である柳水公民館に集合したものの、公民館自体の被災により拠点機能が十分に発揮できませんでした。また、地区内外を結ぶ道路では、崖崩れ等の被害が生じて「孤立に近い状態」となりました。その後の本震・余震の継続により、一時的に地区外への避難生活を余儀なくされました。

柳水地区は、町内の他地区に比べると、壊滅的な被害や大幅な人口減少は免れましたが、21 世帯のうち、約６世帯が現在も仮設住宅（みなし仮設を含む）や親戚縁者等の家に移り住んでいます。

これらの世帯が安心して笑顔で戻って来て、地区のコミュニティを維持していくことが住民全員の共通の願いです。

しかし、今回の震災の影響のほか、今後も続くと思われる地区内の人口減少によって、空き家や耕作放棄地が増加し、環境が悪化する不安もあります。

震災時の苦しい経験を今後は繰り返さず、地区住民が安全・安心に暮らせるようハード面を含めた取り組みを行うとともに、将来の生活環境の変化を見据え、地域資源や良好な自然環境を維持していく「郷づくり」を目指します。

【郷づくりの目標・キャッチフレーズ】

“めがね橋にホタル舞う　安全・安心の郷づくり　柳水（やながみず）！”

３．避難路・避難地の計画

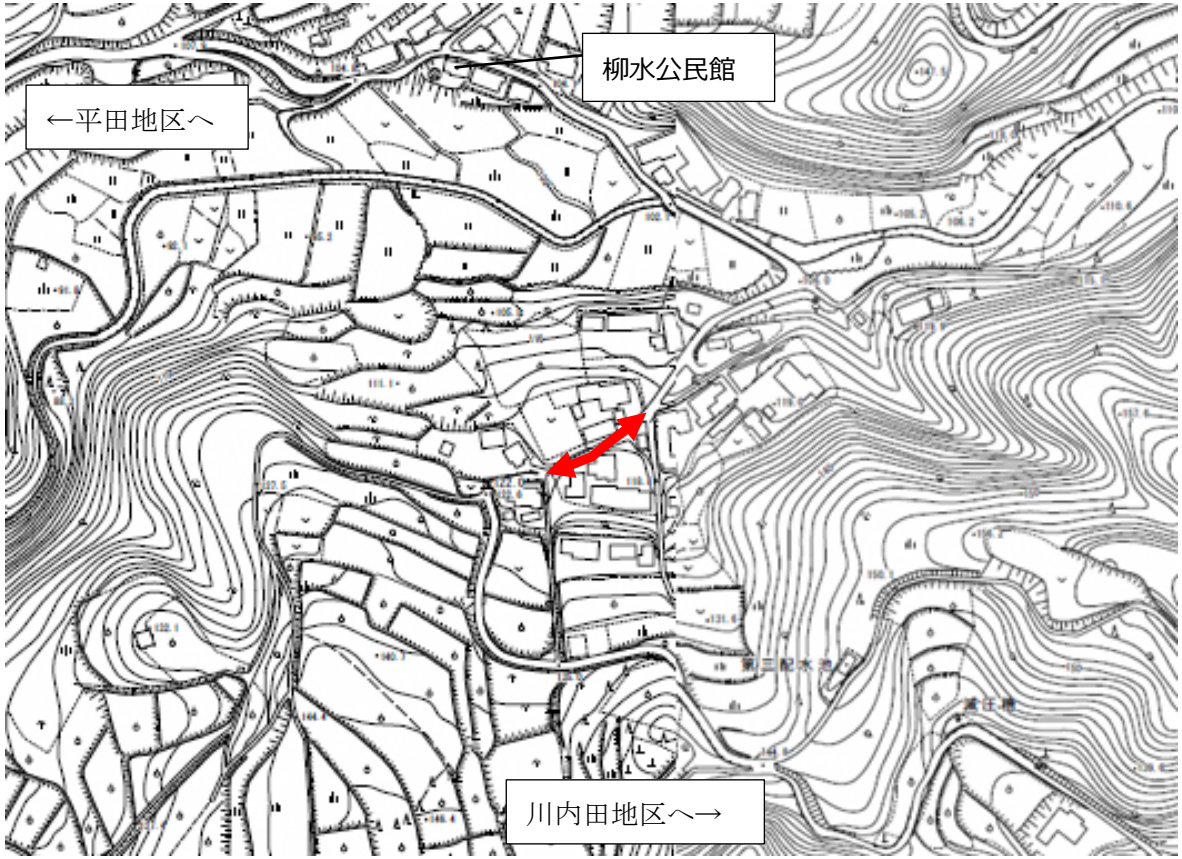
＜避難路＞

避難路については、地区内を通り柳水地区から平田地区や川内田地区へ通じる重要な避難路である町道川内田平田線において、当該道路の特に狭い部分を避難しやすく、かつ緊急車両の通行などもしやすくなるように、拡幅整備します。

表　避難路の整備の概要

路線名等	整備内容		整備の内訳			概算事業費
			延長	幅員	面積	
		拡幅等	（m）	（m）	（㎡）	（千円）
町道川内田平田線	地区公共施設（避難路）	拡幅	150.0	4.0	600.0	15,000

平田・柳水地区【4～6m】



⟷	避難路

図　避難路計画図